

音のふしぎ ～音を出して調べよう～

学習指導者 藤井 康裕

本単元では、音が出ているときと出ていないときの共通点や差異点を基に、音を出したときや音が伝わるときの物の震え方、音の大小による物の震え方の違いを調べていきました。また、授業で学んだことから身の回りの音に関する問いを見出し、その解決にも取り組みました。

本時は、子供たちから見出したエアーポンプの音を小さくしたいという問いを解決していきました。行動場面の音鳴りタイムでは、聴覚だけでなく視覚、触覚も使いながら何度も音を聞き比べ、エアーポンプの音を小さくする材質の物を探っていきました。

振り返り場面では、グループで頑張りを伝え合う音話の滝の場を設定した後に、自分の振り返りを行うことで、自分の気付けなかった頑張りにも気付いて本時の課題解決の達成度が上がるように工夫しました。



ビーズの震えが一番小さいのはフェルトだから、音も小さくできるよ。

考察

○音の伝わり方を視覚（ビーズの動き）や触覚（手で触って）で確認できるようにしたこと、子供たちの粘り強く音を聞き比べようとする姿が見られた。

●考察で他と違う子供の結果を取り上げ、再実験を行うなど、全員が納得してより正確な結果を導き出す方法が必要だった。

●頑張りを十分に伝えられず、課題解決の達成度につながらなかった子供もいた。